

タスク11 書く力をのばす～ 添削の方法

さて、今回は書く力について考えてみましょう。「書く」はアウトプットであり、学習した内容を総動員して行われる言語行為です。そのため、インプットの「聞く」、「読む」ことよりも総じて困難さが大きいといえるでしょう。さらに、学習者にとっては、話し言葉と書き言葉の違い、である・だ体と、です・ます体の混乱、正しい助詞を使う必要性、敬語の問題、文体や文章スタイルの問題など、多くの壁がまっています。

皆さんも日本語を書く練習は学校でたくさんしてきたのではないかと思います。書く練習（作文）が好きでしたか？学校ではどんな「書く」練習をしましたか？自分自身の体験を思い出すところからはじめてみましょう。

練習1：あなたが小学校、中学校、高校で受けてきた自国語の作文教育はどのようなものでしたか？自分の経験を思い出して話し合ってください。

- 1) どんなときに書いたか？
- 2) どんなトピックスで書いたか？
- 3) 教師からどのような指導を受けたか？（話し言葉と書き言葉の違い？書式？）
- 4) 教師はどのように添削、評価したか？
- 5) 作文は好きだったか？それはなぜか？

練習2：まず、生活に密着した「書く」について考えて見ましょう。日本語学習者（日本に在住する）が「書く」ことが必要になるのはどんなときでしょうか？具体的な学習者を想定してどのような「書く」練習が必要か考えてみましょう。

例：

他にはどんな「書く」指導が必要でしょうか？？？

-
-
-
-
-
-
-
-

練習3:長文を書くときには「文の構成」が重要になります。学習者にも前もって文章の型の知識があれば、よりスムーズに早く読むことが可能になるでしょう。

下の□の中のようないろいろな文章は、A～Fの中のどのような型が用いられることが多いでしょうか？

主な文章の型

A 3段構成(序論・本論・結論):

B さきまとめ型:

C あとまとめ型:

D 対比型:

E 順次型:

F 起承転結型:

①あいさつ状 ②案内状 ③感想文 ④広告 ⑤新聞記事 ⑥随筆(エッセイ) ⑦説明文 ⑧通知 ⑨日記 ⑩評論文 ⑪要約文 ⑫レポート ⑬論文

練習4:日本語学習者の作文の添削をしてみましょう。日本語の先生になったつもりで、色ペンがあれば色ペンで添削してみてください。どんなことに気がつきますか？

→別紙資料

ワンポイントメモ

* 誤用分析 *

日本語学習者がどんな誤用をおかすのか想像できない、という人も多いかもしれないが、外国語を学習するときには必ず誤用は起こるものであるし、学習者の誤用例から学ぶことは多い。また、その誤用を分析することによって、母語の影響や誤用の原因の究明、新たな指導方法にも役立つといわれており、重要な学問分野である。

学習者の誤用例:

1) 音声面の誤用(発音面のゆれが如実に現れる)

・私の囚人は、大学で働いています???

・2まんねんは、高すぎます???

・エロ文学を専攻しています???

2) 語彙面の間違い(類語に苦しむ)

・彼女は古い女ですが、とても明るいです???

・研究室にイギリスの女がきました。とてもきれいな人です???

・先生はいつもにたにた笑っています???

3) 文法上の誤用(理解のパロメーター・説明要)

・静かと広い公園です???

・私が日本へきたから一度も雪が降りません???

・日本語が上手になると、この本を読むつもりです???

※ 誤用には、このようにシンプルな誤用から、文化的背景や人間関係の持ち方などが文章に影響する場合や、文全体の構成に対するアドバイスが必要なものもあります。

※ 「非用」といわれる誤用もあります。つまり、本当はその文法様式を使わなければならないのに、自信がないので、代用できるようなやさしい文法を使ってしまうことです。

例:先生がわたしにごちそうしました(≒先生がごちそうしてくださいました。)

より深く学びたい人のために

水谷信子 (1994) 『実例で学ぶ誤用分析の方法』